

2025年(令和7年)

# JGA 全国通訳案内士新人研修会

## 【関東地区】 Daily Report

第一日・2/28(金) 講義 (墨田区 すみだ産業会館にて)

JGA の新人研修の初日は終日の講義です。今年は東京のシンボルのひとつとなった東京スカイツリーをのぞむ会場でした。

JGA オリジナルの全国通訳案内士研修テキストにまとめられた実務に必須の知識、心得、情報を講師の現場での経験談を挟みながらわかりやすく解説していきます。講師は長年新人研修に係ってきた現役の通訳案内士。受講者が初めての業務の際に戸惑わないように、自身や仲間の経験を振り返りながら、どう伝えたら分かりやすいかとあれこれ講義内容を練ってきました。



受講者同士で意見交換するドリルも含めた講義もあり、新しい仲間との船出を感じた一日でした。

2024年度試験の合格者だけでなく、すでに登録済ながら今年からいよいよガイドとして始動予定という方も多く、講義への質問も熱が入ったものでした。参加者は、北海道、栃木、埼玉、東京、神奈川、千葉、愛知、京都、兵庫、沖縄とまさしく「北から南まで」、言語もフランス語、スペイン語、イタリア語、ドイツ語、英語と多岐に亘りました。4名の方は関西地区・関東地区の両地区を受講されました。

第二日・3/1(土) バス実習 都内・成田空港

今日から3日間のバス実習。集合場所は東京駅近くの鍛冶橋駐車場。これからガイドとして何度も来ることになる場所です。春のようなぽかぽか陽気の中、東京マラソンを翌日に控えて、東京駅や皇居周辺にはランナー達の姿が多く見られました。研修参加者も早くから続々と集合し、集合時間より前に出発、さすがはガイドさんです。バスを動かす前にまずはドライバーさんのご挨拶。ガイドとしてこれからは一緒にお仕事をしていくドライバーさんは、バスツアーの安全を担ってくれる大事なパートナーでもあります。「シートベルトを締めてください」の言葉の重みも今迄以上に感じました。



都内観光では、訪問地だけでなく、車窓を意識した案内が必須です。まずは都心から浅草方面への移動でよく使うルートの一つ、中央通りに沿って走ります。土曜日の朝は車少なく、日本橋、秋葉原電気街、上野と次々に出てきます。走行中にお客様に何をご案内するか、お客様が気になるもの、お客様に注目してもらいたいものを常に考えているのがガイド。車窓からの見え方、話せる長さを意識することも大切です。浅草が近づくと、バスでの浅草観光をシミュレーション。予約された乗車場にあわせて、どの降車場を使うか、雷門を車窓で見せて走るかどうか、色々なパターンがあることを確認しました。

最初の下車地は皇居外苑。Palace と行程表にあっても、宮殿は見えません。ここは何を見にくる場所でしょうか。ガイドとしてあらためて考えます。楠公像を前に、皆さんなら何を説明しますか？ 「楠木正成」という名前に頼らずに説明できますか？ 話の中味は、お客様によっても、行程によっても変わるもの。講師は自分の実践例を示しながらも、それぞれが考えることを促します。



国会議事堂、迎賓館、神宮外苑を車窓に明治神宮へ。講師の説明の例は、日本人の宗教感や神道について、あらためて考える機会になりました。お客様の目にうつるだろう景色（森！）を意識して、お客様が迷わないような案内の仕方も学びました。

東京タワーでは、メインデッキへの動線を確認するだけでなく、展望台から何を見てほしいか、どこに注目してほしいかを考えました。

どの場所でも、バスの場合、ハイヤーの場合、公共交通機関の場合それぞれの動線や注意点とともに、よくあるお客様の質問、関連して用意しておくの良い話題など盛りだくさん。東京在住の方もあらためて見る東京に圧倒され気味です。昼食休憩後はレインボーブリッジを渡り、湾岸の景色を見ながら成田空港へ。

成田空港では出発ロビーでお客様を送るセンディングの動線と、現行のチェックイン手続きや免税のシステムを確認した後、到着ロビーへ。ガイドにとって緊張する業務の一つであるミーティングの要領を丁寧に確認しました。どこに立ったらよいのか、両替やトイレの場所を聞かれたらその場を離れずに説明できるか、グループで最初に出てきたお客様と最後のお客様の時間差がある場合は、どのようにしたらグループを一人でもまとめられるのか、いつまで待ってもお客様が現れない場合は？など、いろいろな場面をシミュレーションしました。バスの乗降ルール、JRパスの交換・引き取り場所や手続き、ATM や両替など、空港は確認することがたくさんです。

最後にお台場のビューポイントを確認し、東京駅日本橋口にて研修終了となりました。



### 第三日・3/2(日) バス実習 日光

バス実習 2 日目。今日はロングドライブの経験です。お天気もまあまあでしたが、よく晴れたときには高速から見える富士山や秩父の山々は、今日はお預け。

ツアーの話題は名所旧跡だけでなく、私たちの日々の暮らしについて語る絶好のチャンス。オフィスビルの並ぶ都内から住宅地に移っていくと目にうつるものは何？何故日本の住宅の北側は斜めになっている？ふだん気にしていないようなことから日本の事情が語れます。日本の宗教や歴史を落ち着いて話す機会にもなります。また、講師からは色々なツアーの形態やお客様の様子や反応など、実際に経験した例を話す機会となりました。

バスはいよいよ高速を降りて日光市街へ。今回のようにバスや専用車で来るだけでなく、都内からは新幹線と日光線を乗り継いだり、東武特急で来るアクセスもあるので、JR と東武それぞれの駅を始点とした動きにも触れました。

まずは東照宮を中心とする日光山内へ。雪の多かったこの冬、道の端には雪が寄せられていましたが、幸い歩くのには支障ありませんでした。この時期でも境内は参拝客・観光客で溢れています。有名な「三猿」は、一つの彫刻ではなく、一連の彫刻の意味するもの、見方・説明の仕方。「小学校で来たときは考えもしなかった」とご自分の人生を振り返って苦笑いの参加者もいました。見るもの語るものが多い中、限られた訪問時間で何を取り上げるか、なかなか手ごわい訪問地です。テキストを参考に話を膨らませましょう。背景となる歴史を程よくコンパクトに語るのもガイドのスキルです。



昼食後のバスではうとうとしたところですが、上がり始めたいろは坂両側の雪がどんどん深くなり、目も覚めます。中禅寺湖畔の歌が浜は、雪と氷が残り、温度も下がっていました。ここで記念の集合写真。ひょうきんなドライバーさんの掛け声に皆が笑ったところでパチリ。こんなことも参考になる経験になりますね。

名瀑・華嚴の滝。冬は寒々として見えるのは水量調節のためだけでしょうか。季節によって眺めも変わり、春秋の渋滞の影響も大きい日光。

帰路は参加者がマイクをもって話す体験。話題はお任せで、ツアーの始めに行うお客様への連絡事項を言ってみる、日本の食事についての話、自分の紹介をどう印象付けるか、などなど。皆様なかなかお上手です。間話の話方や、話題のもって行き方、話す内容がとても参考になるもの。短くても貴重な体験です。なんと終点の新宿ちょっと手前で全員の話が終わるという素晴らしい結果となりました。さて、明日はもう一つのロングドライブの富士山箱根。明日に備えて皆さん家路(ホテル路)につきました。



## 第四日・3/3(月) バス実習 富士山周辺・箱根

昨日迄の晴天はどこへ。「今日は無理だろうな〜」。担当するガイドがため息をつく雨空の富士山・箱根研修となりました。講師としても青空の下の富士山を見せてあげたいのは山々。でもそうでないとき、どうしたらよいか、の経験をしておくのも貴重な経験です。百戦錬磨の講師の経験を聞きながらバスはまず河口湖を目指しました。

このような天気の中、山梨県立富士山世界遺産センターはほっとする施設です。お客様もよくご案内する富士山紹介ビデオを見た後、展示物にも目を通して再訪問に備えます。



富士スバルラインは到着少し前に雪のため通行止めになり、予定の一目下駐車場には行けませんでした。料金所のところから講師が補足しました。

富士山が見える時には、停まって写真が撮りたくなるもの。バスが停まれる場所は限られますが、そんな時のために知っておきたい河口湖畔の大石公園にも立ち寄りました。見える時には富士山のラインが美しく、折々の花や売店もある場所です。河口湖では、富士山パノラマロープウェイや遊覧船「天晴（あっぱれ）」の乗り場がある船津もよく行く場所。県営駐車場にバスを停めて、昼食と周辺をチェックする時間を取りました。富士山の写真を撮ろうと殺到する訪日客が問題となったローソン河口湖駅前店を車窓にして、河口湖を出発。

見える時には、右手に大きく富士とススキの原が見られる東富士五湖自動車道を通り、一路箱根へ。乙女峠から仙石原を抜けて箱根ロープウェイの早雲山駅を目指します。

船やロープウェイなど、観光としての乗り物が多いのは箱根の特徴。ロープウェイも船も2社あるため、それぞれのルートと特徴・違いを把握しておくことが大事です。

まずは強羅方面からのケーブルカーとの接続駅でもある早雲山から大涌谷まで、ロープウェイの旅。小雨に煙る大涌谷で下車して、黒たまご売り場や、あちこちから噴気のあがる眺めを確認。大涌谷の駅前展望テラスは工事中ですが、だいぶ様子が見えてきました。



再び箱根ロープウェイで芦ノ湖側の桃源台へ下りました。



箱根園からの箱根遊船 Sorakaze 号は静かに湖上を進み、いつもちょっと心が和む憩いのひと時です。研修では、箱根関所跡港を経由して元箱根港まで乗船し、船上からの箱根神社の鳥居の眺めも確認しました。東海道杉並木沿いをバスであっと言う前に走って箱根関所港の駐車場へ。箱根関所跡から続く道にある寄木細工の箱根丸山物産で実演を見学し、歴史のこと、材料のこと、製造のことを説明いただきました。



帰路には再びマイク体験。休憩予定の海老名 SA は混雑で入れず、一つ先で休憩。こんなことも経験になります。それでもマイク体験は一巡し、かつ到着時間も予定より少し早い、とは、時間管理のお手本のような一日でした。

## 第五日・3/4(火) 浅草・東京スカイツリーウォーキング実習、 講義・修了式+名刺交換会

前日の寒空の中の研修に続き今日も寒い朝ですが、参加の皆様は遅れることなく浅草寺の境内に集合。まだ寒いけれど青空にホッと安堵。2つのグループに分かれてウォーキング実習が始まりました。

都内実習でバスから確認した団体バスの降車場・乗車場を境内とのアクセスの視点で再確認。浅草寺と浅草神社の境内では、目につくもの、私たちには見慣れていても訪日客にとっては気が付かないもの、私たちも見ただけでは通り過ぎて行ってしまうけれどコメントしておいた方が良いものなどを回りながら、ガイディングを組み立てていきました。おなじみの観光地・浅草も、ガイドの目、お客様の目で見ると、違うものに見えてきたでしょうか。



小まめに足をとめて案内ができるのがウォーキングツアーの良いところ。一方で、ウォーキングならではの留意点もいろいろあります。少し休憩できる時間、自由にお店をのぞく時間も欲しくなるもの。仲見世通りは小フリータイムにして、各自で見学しました。インバウンド客に人気のスイーツや土産物など、新しい店舗が目につきました。

隅田川を行く水上バスも浅草のアクセスの一つ。東京都観光汽船の船着き場がある吾妻橋からは、スカイツリーやアサヒビールのビルがよく見えます。

東京スカイツリーでは、ちょっと長くて複雑な展望台への動線を中心に見学しました。

鉄橋沿いに作られた「すみだリバーウォーク」で隅田川を渡り、東京スカイツリーから浅草寺二天門がほぼ直接でつながることを実感しながら、浅草へ戻りウォーキング終了。

午後の講義では、観光庁のご担当者から最新のインバウンド事情と展望を伺い、全国通訳案内士への期待を込めたご挨拶をいただきました。そして、二人の先輩ガイドの体験談。初めての業務を受けるまでの経緯、受けた仕事の準備の中で工夫したことなど、熱意溢れるお話は、集中して耳を傾ける受講者だけでなく、経験者である講師陣にとっても刺激になるものでした。Q&Aでは、参加者の意気込みが感じられる具体的な質問が多数寄せられました。旅行会社のガイド担当の方をお招きしての特別講義では、旅行会社から見たツアーの流れとガイドの役目を率直にお話下り、ガイドへの期待が伝わってきました。



「あっという間の濃密な時間だった」「講師が長年培った経験・技を惜しみなく分けてくれたことが驚きと感動だった」という声も聞かれました。修了証を手に、皆様とてもいい笑顔で記念撮影。その後は名刺交換会。ご来

場くださった旅行関連の14社の方々と緊張しながらも個別にお話をする営業の第一歩の機会となりました。講師も受講者も同じ全国通訳案内士の仲間です。皆様のご検討を祈るとともに、研修会やお客様をご案内中の街角でまたお会いする日をスタッフ一同楽しみにしております。

## オプション 3/5(水) ウォーキング鎌倉実習

オプション「ウォーキング鎌倉実習」は、新人研修の参加者に加え、一般募集のJGA会員・非会員の全国通訳案内士との合同研修として行われました。前夜は雪で影響が心配されましたが、交通機関の大きな混乱もなく無事にスタート。霧雨が降ったりやんだりの寒い天気でしたが、参加者の熱意溢れる一日となりました。

新人研修の一環として、オーソドックスな鎌倉のハイライトコースを想定。長谷エリアの高徳院大仏と長谷寺、鎌倉駅から鶴岡八幡宮のエリアをカバーしました。鎌倉駅から長谷エリアとの間の行き帰りには、路線バスと江ノ電を片道ずつ利用しました。短時間の移動も鎌倉を見る・知る機会ととらえたいもの。

今回のスタート地点は鎌倉駅ですが、都内からの日帰りも多いのが鎌倉観光。都内からの移動も含めて、バスの場合、公共交通機関の場合の注意点を確認しながら回りました。どちらの場合もコツのいる街でもあります。



大仏様と長谷の観音様、仏教のこと、歴史のこと、花のこと。ガイドの話題もたくさんあります。人の暮らしも間近に見られる鎌倉の良さ。文豪や芸術家が好んだ鎌倉。ウォータースポーツ……。 「鎌倉ってどんなところ？」と聞くお客様に紹介できるキーワード、鎌倉の特長をさがせたでしょうか。



昼食休憩では、小町通りや若宮通りで食事場所や人気の土産・食べ物もチェックしました。混んでいて昼食場所を探すのに苦労することも実感です。

にぎやかな小町通りから少し入れば静かな住宅街となるのも鎌倉らしさ。最後に訪問した鏑木清方記念美術館でもそれを実感できます。美術館では学芸員の方から展示作品のことだけでなく、日本画の画材などについても解説をいただきました。近代日本画を代表する画家が描いた色合い美しい作品とともに、日本画についてもあらためて考える機会となりました。